

研修会報告

令和元年 11 月 5 日

文責：鎌田 将矢

研修会名：生物化学分析部門研修会

テーマ：「糖尿病を深く学ぶ」

開催日時：令和元年 10 月 26 日(土) 14:00 ~ 16:50

会場：東北医科薬科大学病院 大会議室

<プログラム>

【講演 1】

「HbA1c 測定における注意点」

講師：日立化成ダイアグノスティックス・システムズ株式会社
CR 推進部 学術グループ 近藤 大 先生

【講演 2】

「糖尿病治療における多職種連携での臨床検査技師の関わり方と SMBG 機器について」

講師：JCHO 仙台南病院 検査部 技師長 渡辺 さち子 技師

【特別講演】

「糖尿病の病態と治療、検査結果の理解について」

講師：独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター
内分泌代謝内科 櫻井 華奈子 先生

日臨技生涯教育研修制度：専門 20 点

参加者：会員 41 名、賛助会員 5 名、非会員 4 名、講師 3 名

計 50 名

【内容】

「糖尿病を深く学ぶ」をテーマに、糖尿病治療と血糖やその他血糖コントロールマーカーについて様々な視点から学ぶ事を目的に企画しました。講演 1 では、日立化成ダイアグノスティックス・システムズ(株)の近藤先生に血糖コントロールマーカーの特徴を中心に糖尿病マーカーについてご講演して頂きました。HbA1c の測定原理別の特徴と GA の方が貧血や透析導入患者の血糖コントロールマーカーとして有用であることなど詳しく解説して頂きました。講演 2 では、JCHO 仙台南病院の渡辺技師に糖尿病治療における臨床検査技師の関わり方と SMBG 機器について、普段から糖尿病治療に多職種連携の一員として参加している経験と SMBG や POCT 機器の基礎について丁寧にご講演いただきました。特別講演として、国立病院機構仙台医療センターの櫻井華奈子先生に「糖尿病の病態と治療、検査結果の理解について」というテーマで、各項目の基礎的なことから測定原理や測定において影響を与えるものなどについて丁寧にご講演して頂きました。肝硬変など HbA1c の測定値に影響を与える疾患の場合などに、入院中の空腹時血糖を使い推定 HbA1c を用いて糖尿病を

否定したことや、他にも普段データを送っているだけでは考えられないような測定値の使い方を知れて大変勉強になりました。ベッドサイドで行う簡易血糖測定のことや糖尿病治療においてどのように測定結果が使われるかを今回学ぶことができたので、今後病棟検査技師などとして関わる際にも非常に為になり、また質疑応答でも活発な意見交換が見られ有用な勉強会になったと思います。

今後の研修会においては、記載して頂いたアンケート結果を基に有用な研修会を企画していきたいと思います。